



「タテ」でも「ヨコ」でもない、「ナナメの関係」で子どもを支える

いじめの早期発見や対応を含め、「社会全体で子どもを育て守るためには、親でも教師でもない第三者と子どもとの新しい関係＝“ナナメの関係”をつくることが大切である。地域社会と協働し、学校内外で子どもが多くの人と接する機会を増やすことが重要である」と文科省有識者会議で提案されたのは20年近く前のこと。また、リクルート社から教育界に転身し、義務教育初の民間校長になった藤原和博氏の15年前の著書『校長先生になろう！』の冒頭にも“ナナメの関係”が登場します。子供を育てるのは家庭や学校が中心ですが、今一度学校運営協議会や地域を含めた“ナナメの関係”で子供たちを支え続けていく視点で見直したいものです。以下に、『校長先生になろう』から引用・紹介します。



（略）だとすれば、子どもたちのまわりに、親でも先生でもない大人の存在が必要だということをわかってもらえるだろうか。子どもが大人になるためには、親や先生以外の大人との人間関係が必須なのである。それも、いい子であることを強要されたり、評価されたり、成績をつけられたりすることのない、利害関係のない第三者との関係である。友だちとの距離感を教わったり、悩みを聞いてもらえたり、何となく緩衝剤になってくれたり…いつときの逃げ場や精神的な居場所としても。

あなただって、父親に『そんなこと、絶対ダメだ！』と言って否定されたことを、「いいじゃないかなあ、失敗したって」とサポートしてくれたオジさんや、「お父さんが言っているのはこういうことなんじゃない？」などと通訳してくれたおネエさんの存在に助けられたことがあるはずだ。そうして、ようやく自分の居場所が見つかった思い出もあるんじゃないだろうか。

こうした直接の利害関係のない第三者と子どもたちとの関係を「ナナメの関係」と呼ぶ。親と子や先生と生徒のような「タテの関係」や、友だち同士の「ヨコの関係」と区別するためだ。肉親であるかどうかに関わらず、世代の違うおニエさん、おネエさん、オジさん、オバさん、おジイちゃん、おバアちゃんたちとの関係。

こうしてみると、人間関係のあり方を身につける道場とも言える「ナナメの関係」が、いまの子どもたちには圧倒的に不足していることがわかる。

地域社会を崩壊させてしまったからだ。地域社会には、商店街や町会やご近所との関係だけでなく、兄妹や親戚や老人世代と同居する家族そのものも含まれる。いわば「人間が子どもから大人として揉まれるための装置」である。深刻なイジメ問題の本質はここにある、と私は思う。（中略）

この仮説が正しいとするなら、「ナナメの関係」の復興が急務である。（以下省略）

言い換えるなら、子どもを中心にした家庭・地域・学校の「パートナーシップ」そのものです。「やってあげた」「やってもらった」などという上下関係や利害関係ではなく、自然な姿を目指したいものです。同じ目標・目的のもとで、それぞれの立場から取り組めたらすばらしい形になりそうです。『柏井納涼ふれあいの夕べ』は、まさにその体现でした。たくさんの子どもの笑顔のために、立場を超えて多くの大人が手を携える姿を見た小中高生が、柏井地区の未来を支えていくのだと思うのです。

このパートナーシップは、互いの信頼の上に成り立つと考えます。信頼関係はそう簡単には築けません。とことん話し合うことが必要な場面もあります。直接話すことで、もしかすると「考えがよくわかった」「誤解していた」などということもあるかもしれません。だから、まずは互いに声をかけ合うことから！保護者や地域の方の力をお借りして、子どもたちはさらに伸びていきます！

がんばる子供たちの声をデリバリー！

先月24日に行われた市内陸上競技大会の5年女子走り幅跳びで、Sさんが363cmを跳んで優勝。6年男子走り高跳びでは、Hさんが149cmを跳んで、惜しくも第2位という結果を収めました。頑張った陸上部をはじめ、自分の力を信じて取り組む子供たちの声を、今回はお届けします。

【自己の目標達成をめざした陸上部】

陸上部の練習が始まり、先生方に跳び方などを教えてもらったり、家でも自分で研究をしたりして、毎日練習をがんばりました。本番では、いつもと違うグラウンドで緊張していたけれど、練習した成果を出し切り優勝することができて、とてもうれしかったです。たくさん応援、ありがとうございました。

(5年 S・C)



ぼくは、けがで練習を休むことがあって、本番に出られるかわからなかったけど、大会に出られてすごくうれしかったです。

本番では色々な人がいて、不安もありましたが、親の応援が聞こえて、予選をクリアできました。バーが高くなるにつれてきん張したけれど、全力で跳んでいい結果が出せてよかったです。

(6年 H・T)

アップの時に初めてクラウチングスタートをやりました。練習の時には一回もやったことがなかったけれど、アップでたくさん練習して本番で走りました。最初は「えっ？クラウチングスタート？」ととまどいもあったし、まわりの子も速そうで不安だったけれど、全力で走り、がんばりました。

(6年 S・K)

【活躍の場が広がる音楽部】

ジブリメドレーの難しいところは、曲が変わるとテンポやリズムが変わるので、カウンターのし方が複雑なところです。同じ楽器のひと、演奏しながらおどるのも難しいことの一つです。ですが、工夫しておどりながら綺麗な音が出せるように練習を重ねました。

パートごとにメロディーがあるので、楽器の持ちように合った演奏をぜひ楽しんでください。

(6年 O・M)

【読書月間真つ只中の図書委員会】

私たち図書委員は、みんなが本をたくさん読めるように本の魅力(みりょく)が伝わるように、ポスターや放送朗読をするなど活動しています。

11月は読書月間なので、読書ゆう便やおはなし給食、しおりコンテストなどたくさんさんのイベントを行います。図書室での大好きな本との出会いをお手伝いします。

(6年 N・T)

【よい声を響かせた市内音楽会】

会場に人がたくさんいるのがステージから見えて、きん張したけれど、みんなで心を合わせて、とてもよいものがつくれてよかったと思います。けれど、市内音楽会で歌っているときに、本気を出せなかったと少し後かいる場面がありました。

ですから、それを校内音楽会で改善していけたらよいと思っています。少ない人数でも「すごい！」と思われるような発表ができたなら、とても喜びを感じられると思います。

(6年 G・K)



～ 冬の体育時の服装について ～

これから北風が冷たい季節がやってきます。屋外での体育学習で、思わずブルブルっとふるえる場面も多くなります。半袖半ズボンの体操着を着用しながらも、体が温まるまでは防寒対策が必要かもしれません。汗や埃などで汚れることを踏まえ、服装については以下のとおりとします。



- 寒いときは、長そでトレーナーの着用を可とします。(ボタンやチャック、フードありは不可)
- ジャージ類など、運動に適した長ズボンは着用可とし、体が温まったら脱げるようにするため、下には体操ズボンを履きます。体育用ですので、登下校時に履いていたものを着用しません。
- タイツは、体操服に着替える際に脱ぎます。その場合、ひざ下までの靴下に履き替えます。
- ネックウォーマーや手袋はつけません。